

静岡県議会議員

鈴木ゆきこ 通信

令和7年度・冬号
浜松市旧中区選出



会派や委員会での役職を拝命しておりますことから、
慌ただしくも、充実した毎日を送らせていただいております。
こうした様々な機会と、みなさんから多くのご意見を
いただいていること、大変感謝しております。
これからも、みなさんのお役に立ちよう、しっかり活動してまいります。
鈴木唯記子

会派知事要望

令和8年度 当初予算編成に対しての政策
提言を行いました。

『礎・環・豊・福・創・継・人』という7つの
キーワードを設定し、その中に詳細を入れてい
ます。財政収支では財源不足額が640億円と
なりました。これまでも財政健全化を推進する
ため、事業見直しを始め様々な政策提言をして
きました。しかしながら削減だけが先行しない
よう、めりはりのある運営を求めました。

12月定例会委員会

県は11月1日～12月7日を地震防災強化
月間とし、この期間内に防災訓練の実施を
お願いしていますが、昨年と比較して参加団体
数は67団体増加しているのも関わらず参加
人数は93,261名も減少しています。また中高生
の参加が自由になったことから減少が著しいと
感じています。中高生の参加についても県が
各市町へ呼びかけをしているとのことなので、
強制力を発動するよう強く要望しました。

賛成討論



会派を代表して賛成討論の機会をいただきま
した。討論とは議会などで議題となっている
案件が採決される前に、議員がその案件
に対して意見や理由を表明することです。台風
15号の対応、介護人材不足への対応、物価
高騰対策が主な内容であり、全ての議案に賛成
の立場から討論しました。

鈴木ゆきこ 政務事務所



〒430-0842
浜松市中央区大柳町98

TEL&FAX
053-482-9261



yuki230409
@gmail.com



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収へ

2月定例会 議会質問します！

2月26日 11時10分くらい

静岡県庁 本館4階 本会議場

今回の質問項目（予定）

▶浜松特別支援学校の建替え

（工事計画、移転についての考え方、
盲・聴覚支援学校の老朽化対策は？）

（インクルーシブ教育とアントレプレナー
シップ教育の推進の導入は？）

▶県立高校の樹木等維持管理

（学校施設費では賄えない費用負担）

▶施設の利活用について

（静岡県動物管理指導センター跡地利用）

▶災害時のためのデジタル身分証

▶ライフサポートケアマネジャーの普及

▶地域活性と海岸整備について

（人材育成と春高ビーチの誘致）

▶サブカルチャーによる観光需要の取込み

【お知らせ&注意事項】

- あくまでも予定ですので、ここに無い項目が
増えたり、無くなったりします。
- 質問の日時変更になる可能性があります。
変更があった場合にはSNSでご報告します。
- 大項目6問です。ここに掲載したものは
できるだけ質問していきたいです。
- 「一日は休みが取れない」という方が多いた
めバスは出さない予定です。バスでないと
来られないという方もいらっしゃるかも
しれません。3月発行のゆきこ通信で
質問になった打率のご報告します。



三二県政報告会・逆報告会やってます！

第2or第3土曜日13：00～15：00に開催し
ています。

（別日でも予定が合えば大丈夫です）

事前予約で2名様以上でお願いしています。

事務所まで

電話・FAXかメール

でお申込みください。



最近は防災関連の話題が多いですが、先日は
他都市の取組みについて、見てきたこと・聞いて
きたことを熱くご報告くださり、とても参考
になりました。

皆さんの「聞いてほしい！」
大歓迎です。短い時間でも
大丈夫ですので、お気軽に
ご連絡ください。



プロフィール

鈴木唯記子(すずきゆきこ) 1975年6月

経歴 浜松市立遠州浜小学校卒業

浜松市立江南中学校卒業

浜松市立高等学校卒業

共生会歯科技工士専門学校卒業

歯科技工士として勤務・自営業手伝い

2015年 浜松市議会議員初当選(2期)

2023年 静岡県議会議員初当選(現在1期目)

西伊場町在住・実家は玉南町



なぜ？今？防災士取得！

この夏、ふじのくに防災士の認定を取得しました。
なぜ今なのか、キッカケは…

①手のひら二つ分と両手広げて二人分

(※詳細は↓防災勉強会参照)

南海トラフ地震の真の規模を初めて知りました。

②コロナ後の防災訓練参加者数の減少

コロナの3年は大きいと実感しています。中高生の参加も自由になり、学校への参加報告がなくなりました。(戻すよう提言しています)

③個別防災会の願いが増えたこと

「災害が増えているので、関心はあるけど難しい勉強会はちょっと…気軽に話を聞きたい」と防災の内容でミニ県政報告会(4ページ目に紹介あります)の申込みが増えました。ひとりでも多くの方に南海トラフの規模感と最新情報を知り備えてほしいです。

浜松防災士協会に
所属しています



受講してみて気づいたこと

ふじのくに防災士は8割の出席が求められます。さらに日本防災士機構の資格取得には静岡県立大学での受講8割の出席と試験合格が必要です。平日受講選択は草薙キャンパス、土日受講選択は静岡県地震防災センターが会場のためいずれにしても静岡市まで行かなければいけません。現在東部西部会場の設置と受講しやすい日程設定も求めています。



県立静岡大学



静岡県地震防災センター

防災勉強会

～手のひら2つ分と両手広げて2人分～

常葉大学社会環境学部の小村隆史先生に会派で勉強会を開催していただきました。小村先生は静岡県総合計画審議会に委員として参加しています。「手のひら2つ分と両手広げて2人分」とは小村先生流の南海トラフ地震の全体状況の縮尺サイズです。手のひらを2つ並べた大きさを能登半島だとすると、両手を広げた2人分が南海トラフの被害と想定される大きさということです。

災害の被害が能登半島より仮に少なかったとしても範囲がかなり広いので、道路が分断され被災地まで入ることできないかもしれない。入れたとしても各地で被災していて支援できる団体が少なく、避難生活が長期化することが想定されます。まずは災害の規模感と自分の地域の歴史を知ることから備えが始まります。



自衛隊災害派遣3要件

先日の台風15号で自衛隊の災害派遣は無しと判断されましたが、災害派遣とはどのようなときに実施されるのでしょうか。

災害派遣とは都道府県知事の要請に基づき3要件を満たす場合に実施されます。

①緊急性(差し迫った必要性)、②公共性(公共の秩序維持)、③非代替性(自衛隊の他に手段がないこと)この3つを総合的に判断し、人命・財産確保のために「やむを得ない」と認められる状況で出動します。今回、自衛隊との事前調整内容が職員間で情報共有がされておらず、委員会で誤った答弁がなされ県民に不信感を与えてしまいました。再発防止を図るとともに、県庁組織内での情報共有のさらなる徹底を委員会として申し入れました。

*左から康友知事、伊丹委員長、望月副委員長、私です



大学生との意見交換会

(静岡英和学院大学)

大学生との意見交換会ということで静岡英和学院大学へ伺いました。

テーマは大きく2点、

- ・子どもを取り巻く問題の早期発見と支援体制
 - ・福祉業界における経済問題と人手不足
- について8問ほど質問がありました。

どれも重要な課題で浜松市議時代の経験を事例に意見をさせていただきました。

若い皆さんの新しい発想があり大変参考になるご意見が聞けて、有意義な時間を過ごさせていただきました。皆さんが社会に出てからのご活躍が楽しみだと思いました。



湖西白須賀海岸イベント

(リジェネラティブマーケット)

ビーチクリーンから始まり20店舗のブース、ビーチバレー体験、ビーチヨガ、ラジオの公開収録、6組のアーティストによるミニライブなど盛りだくさんの内容で開催されました。

一つの分野に特化してないため、大変多くの人で賑わっていました。海岸を使ってみんなでキレイに清掃する。大切だと思います。



*地元ビーチバレーのクラブチームが参加していました。いろんな中学から集まっているとのこと。元気いっぱいでした！

*参加アーティストが順番に演奏していました。午後の日差しとビーチ、音楽がマッチしてとても素敵なライブでした。



インクルーシブ教育とアントレプレナーシップ教育

～田方農業高校と沼津特別支援学校 伊豆田方分校視察～

インクルーシブな学校運営モデル事業を視察させていただきました。

インクルーシブ教育システムとは、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組みであり、障がいのある者が一般的な教育制度から排除されないこととあります。(インクルーシブ教育システム推進センターHPより一部抜粋)

田方農高と伊豆田方分校は同じ敷地内にあり、交流だけでなく共同学習を発展的に進め、一緒に教育を受ける状況と、柔軟な教育課程及び指導体制を目指し、実証的な研究が実施されています。

(ちょうどイチョウが綺麗に色づいていました)



インクルーシブ教育の視察に行ったのですが、田方農業高校の授業もとても素晴らしく、あれこれ質問をしてしまいました。

入学時は就職希望が多いですが、高校3年間でより深く学びたいと進学に切り替える生徒が多いそうです。また女子生徒の方が男子生徒より多いとのことでした。

アントレプレナーシップとは起業家精神といわれますが、単なる起業家育成のビジネス教育ではなく社会課題発見能とそれらを解決に向けて挑戦する知識・能力・態度を身につける教育です。

自分の偏差値で学校を選び、高校や大学卒業までにやりたいことや自分の得意なことが見つからないという人が増えていると感じています。このように目的や、やりがいを持って進学や就職を決められる選択肢の広さは大切だと思いました。今後こうした教育モデルを推進していきたいです。